

全国防草ブロック工業会の 次世代ブロック技術が「環境賞」を受賞



環境賞とは「環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動で画期的な成果を上げ、または成果が期待されるもの」とし、防草ブロックの防草技術は優良賞に選ばれました。

発信元：全国防草ブロック工業会

平成25年度(第40回)

【環境賞】

優秀賞3件、優良賞1件、特別賞1件

全国防草ブロック工業会(所在地：愛知県豊田市、矢野コンクリート工業(株)内)が全国展開している次世代ブロック「防草ブロック」の防草技術は、平成25年度「環境賞」【主催：日立環境財団・日刊工業新聞社 後援：環境省】を受賞し優良賞に選ばれました。

受賞式典は平成25年06月12日、経団連会館(東京、大手町)で開催され防草研究会・石川重規氏(左から2人目)と全国防草ブロック工業会長・矢野明正氏(現：矢野コンクリート工業(株)代表取締役、右から2人目)らが表彰式に参列しました。

贈呈式では(財)日立環境財団理事長・小豆畑茂氏(写真左端)、(株)日刊工業新聞社 取締役社長・井水治博氏(写真右端)らが式辞を述べ審査委員長の合志陽一氏(国際環境研究協会 会長、東京大学名誉教授)の審査

経過報告が発表され、また来賓として環境大臣の石原伸晃氏の祝辞の予定であったが、欠席のため同省総合環境政策局長の白石順一氏による祝辞が述べられました。

環境賞を受賞したこの技術は、植物の成長メカニズムに着目し防草研究会・石川繁氏の長年の研究により考案された技術で、全国防草ブロック工業会製品として技術採用されております。

昔も今も歩道や車道、中央分離帯には歩車境界ブロック、また側溝型ブロックが安全対策や自然災害を考え設置されてます。しかし施工後には、雑草の成長による多くの障害を防ぐ為に防草対策が必要となる所も多く、そのため毎年多くの費用をかけ、維持作業として草刈りや防草資材を利用した防草対策工事が新たに必要とされてきました。しかし防草技術を備えた「次世代ブロック」を使用する事で、これら一切の維持作業が必要なくなり経済効果も大きく期待できる事から、防草ブロックを使用した各地域(国交省はじめ各自治体)による施工実績も増え続けており、製造量も年々倍増しております。製品価格や施工性も従来製品と同レベルのため発注側も設計しやすく、なによりも「雑草が自ら成長を止める」ので環境負荷が全く無い事で、発注側、我々生活利用者双方に歓迎される製品です。

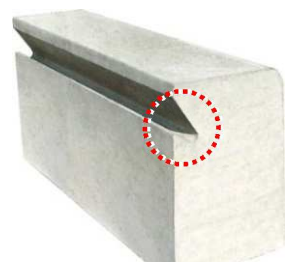


受賞にあたり全国防草ブロック工業会 会長・矢野明正氏は、「工業会としてまた会員社にとっても「環境賞」受賞は大変喜ばしい事であり防草ブロック製品の販売や公共工事への製品の採用も加速されるであろう。また今回の「環境賞」受賞技術の内容をみても、日本のトップクラスの大手企業や国立研究機関が受賞する中で、我々の防草ブロック技術が環境賞に選ばれた事は、会員各社の励みとなり本工業会の益々の発展に繋がる事となる」さらに「製品単価千円前後からのコンクリートブロックの技術が日本を代表する大学、研究機関の有識者の先生方による評価を頂いた事は、ブロック業界にとっても稀な事であるが、本製品によってコンクリート二次製品業界の盛り上がりの一役となれば嬉しい。」と述べています。全国防草ブロック工業会は、今年度より日本雑草学会へ加盟しておりコンクリート二次製品とはいえ雑草をテーマとしており、社会貢献を含め今後の製品技術や研究へ向け製品の向上を常に意識して展開しております。



受賞技術は、植物の成長ホルモンに着目し「屈性」を利用している。目地剥離が原因となり、地下から成長する雑草の芽や茎本来の成長方向を途中で下向きとなるよう、また目地上部から下方向へ成長する根は上向きとなる目地構造となっている事で、植物の成長メカニズムがアンバランスとなり雑草の成長が止まる。また、この切り欠け構造は目地が剥離し難い構造でもある。

■ 問合せ先：全国防草ブロック工業会事務局 0564-43-3700 (井浦)



※本紙の記事および写真等の使用は、主催者及び個人より許諾のうえ使用しております、無断転写を禁じます。